

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
 【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	34 教育学専攻	責任者	杉田 明宏
基準5	学生の受け入れ	自己評価	B
★基準5の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 点検・評価項目(3)5-3の定員充足の改善課題が未達成であるため。			
点検・評価項目(1)	5-1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。		
★<学生の受け入れ方針>（記入してください。） 以下のアドミッション・ポリシー（AP）を定め、web サイトで公開している。 文学研究科教育学専攻修士課程は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（と教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜によって受け入れる。 1. 広く教育に関わる基礎的な知識を有し、自らの問題意識を深く追及するための読書力・語学力・情報収集力・論文執筆力などのもとなる基礎的諸技能を身につけている。 2. 自らの問題意識を社会的に意味づける判断力を有し、それを研究課題として他者にも説明できるよう一般化する思考力や表現力を備えている。 3. 自らの問題意識を学問研究として深く追究するため、先人の仕事に学びながらも、あくまで自分の頭で考え抜こうとする態度を有している。 4. 次のような人々を受け入れる。 ①教育学関連の学部・学科を卒業し、先進的な教育実践者や教育研究者を志している。 ②外国人留学生で、日本や自国の教育について高度な研究や実践を志している。 ③市民として、教育関連の活動や事業のリーダーを目指している。 ④現職の教員で、教育研究を深め、またキャリアアップを目指している。			変 有（ ） 更 無（○）
評価の視点1※ 【基礎要件●】	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を設定し公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針、基礎要件確認シート 15		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	方針には、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像を踏まえて設定している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
評価の視点3※ 【基礎要件●】	入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示され、公表している。根拠資料→A1-6-1Web サイト 大東文化大学の基本方針		
点検・評価項目(2)	5-2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。		
評価の視点1※	学生の受け入れ方針に基づく学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報、A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
評価の視点2※	授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供を適切に行っている。根拠資料→A5-1Web サイト 入試情報		
評価の視点3※	専攻ごとに入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備している。根拠資料→A3-11* 入学センター規程、B5-15 部局内入試委員会名簿		
評価の視点4	公正な入学者選抜を実施している。根拠資料→A5-3Web サイト 大学院入学試験要項（入学試験募集要項）、A5-4* 大東文化大学入学者選抜試験規程		
★項目(2)5-2①公正な入学者選抜を実施するため、どのような取り組みを行っているか、根拠資料を用いて回答してください。			

<p>《回答》</p> <p>各入試方式の問題作成にあたっては教育学専攻協議会において教員の中から問題作成委員・検査委員を選出し適切な問題作成ができるようにしている。また、面接試験においては3つの小専攻の研究指導担当者がAP、定員充足を考慮しながら厳格な選抜を行い、直後の専攻協議会で判定会議を行い決定している。</p>		<p>《資料名》</p> <p>34-C5-1 :</p> <p>①2023年度教育学専攻入試委員一覧</p> <p>②2023年度入試判定資料(教育学専攻)</p>
<p>★項目(2)5-2②オンラインによる入学者選抜を行う場合における公正な実施(オンラインによる入学者選抜を検討していれば、実施する場合における課題やメリット等を記述してください。)</p>		
<p>《回答》</p> <p>オンラインによる入学者選抜を行っていない。</p>		
<p>評価の視点5</p>	<p>入学を希望するものへの合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施している。(一般入試及び多様な入試への対応) 根拠資料→A5-3Webサイト、A5-4*大東文化大学入学者選抜試験規程</p>	
<p>★項目(2)5-2③オンラインによって入学者選抜を行う場合における公平な受験機会の確保(受験者の通信状況の配慮等)(オンラインによる入学者選抜を検討していれば記述してください。)</p>		
<p>《回答》</p> <p>オンラインによる入学者選抜を行っていないため、言及できない。</p>		
<p>◆学生募集及び入学者選抜について問題点があれば記述してください。(ない場合は「なし」と記入)</p>		
<p>《回答》</p> <p>なし</p>		
<p>点検・評価項目(3)</p>	<p>5-3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理している。</p>	
<p>評価の視点1※</p> <p>【基礎要件●】</p>	<p>専攻の入学者数は、入学定員に対して適正な数である。(2021年5月1日現在)</p> <p>注：定員管理の指針 入学定員に対する入学者数比率(5年平均)</p> <p>定員超過→2.00以上(改善課題)</p> <p>定員未充足→修士課程0.50未満(改善課題)、博士課程0.33未満(改善課題)</p> <p>根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16</p>	
<p>評価の視点2※</p> <p>【基礎要件●】</p>	<p>専攻の在籍学生数は、収容定員に対して適正な数を維持している。(2021年5月1日現在)</p> <p>注：定員管理の指針 収容定員に対する在籍学生数比率</p> <p>定員超過→2.00以上(改善課題)</p> <p>定員未充足→修士課程0.50未満(改善課題)、博士課程0.33未満(改善課題)</p> <p>根拠資料→大学基礎データ表2、表3、基礎要件確認シート16</p>	
<p>評価の視点3</p>	<p>収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応</p>	
<p>★項目(3)5-3 収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足がある場合、当該部局としての改善策(今後実施予定のものも含む)根拠資料を用いて回答してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>定員割れに関する認証評価指摘事項を踏まえ、2018年度以降2023年度をゴールとして定員5人を充足するための取り組み(B票)を続けてきた。大学院説明会や担当教員のゼミ、授業見学ウィークでの指導や体験授業を通じて、2017年度入学生の定員の40%レベルから2023年度入試では80%レベルに改善した。収容定員に対する在籍学生数比率は0.70と徐々に改善してきた。長年の課題である内部進学者は1名在籍に留まっている。</p>		<p>《資料名》</p> <p>34-C5-2 :</p> <p>2022年度大学院授業見学ウィークの開催</p>
<p>点検・評価項目(4)</p>	<p>5-4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。</p>	
<p>評価の視点1※</p> <p>【評価要件○】</p>	<p>適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。</p> <p>根拠資料→B2-51 2023年度点検・評価シート</p> <p>B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日)2023年度自己点検・評価について</p>	
<p>評価の視点2</p> <p>【評価要件○】</p>	<p>定員の未充足を克服するために点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っている。</p>	
<p>★項目(4)5-4 改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。</p>		
<p>《回答》</p>		<p>《資料名》</p>

毎年、自己点検・評価を行い、特にIV改善項目について年度ごと進捗確認を行い改善・向上に向けて検討している。	34-C5-3 : 2023 年度点検・評価シート(基準 4) ※教育学専攻
---	---

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	アジア圏からの留学生、中高教員免許に加えての小学校免許の取得（他大学・他学科の卒業生）、専修免許の取得を目指す学生を積極的に受け入れてきた結果、文化・価値観において多様な環境となっている。
-------	--

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

問題点・課題	<p>教育学科卒業生の進路選択肢として大学院が十分に認知されているとは言い難い。学部授業や新年度ガイダンス、教育学会活動等において大学院の紹介をしたり、授業やイベントで大学院生と交流できる機会を作っていく、大学・学科 HP への掲載等の工夫を通じて、教育研究を深める魅力や、専門性やスキルを高める場としての具体的なイメージを伝えていくことが必要であろう。</p> <p>大学院創設時に想定した現職教員の受け入れは実現していない。国立大学を中心とした教職大学院の定着、教育現場の時間的余裕の喪失等の背景、現場教員のリカレントニーズ、カリキュラム・開講形態の工夫等、総合的に検討する時期に来ていると思われる。</p>
--------	--

※注：2023 年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画番号	B 票 No. or 開始年度	改善計画（アクションプラン）	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
②	1	2018-5Ⅲ-1(5-3)	定員充足率の改善	定員充足率の改善を図るためには、まず大学院説明会、授業見学ウィークの機会を引き続き活用していく。内部進学者を確保するためには、学部学生にゼミ・授業や教育学会活動等で大学院での研究活動の具体的姿や魅力を紹介するとともに、大学 HP へも同様の情報を掲載する等、大学院の認知度を上げ、早期から進路の選択肢として検討できるようにする。国際化の観点から留学生の進学を引き続き積極的に受け入れていく。また、研究・研修のニーズを持つ現職教員や社会人の受け入れのために、授業開講形態等の条件づくりについて検討していく。修士課程 2 学年 10 名を達成することによって、教員との 1 対 1 の関係を超えて、院生どうしが相互に刺激し合いながら問題意識を醸成させ、自主的・共同的に研究力量を向上させるモチベーションが高まる環境を作りたい。	収容定員充足率 (%)	A(100%)：充足率 100% B(80%)：充足率 80% C(50%)：充足率 60% D(20%)：充足率 40%	2023 末結果：B 2023：C 2024：B 2025：B 2026：A
①	6	2023 (2022～継続)	学科学生向け大学院紹介	学科の授業、教育学会活動、新年度ガイダンス時等に進路などの説明をする。	内部進学者の比率を高めることを狙うものだが、同時に学科全教員の理解と協力を受けることも課題とする。	A(100%)：実施 B(80%)：周知 C(50%)：計画 D(20%)：検討	2023：ABCD

V 【内部質保証委員会による点検・評価】

<p>2022年度<所見></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性が、web サイト等の根拠資料から明確である。</p> <p>求める学生像や入学希望者に求める水準等の判定方法についても、web サイトによって明確である。学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していること、専攻ごと入試に関わる委員会等を設置し、入学者選抜実施のための運営体制を整備し、公正な入学者選抜を実施していることについても、web サイトその他の根拠資料から、確認することができる。オンラインによる選抜は実施されていないが、公平な入学者選抜を実施するための取り組みとして、教育学専攻協議会において教員の中から問題作成委員・検査委員を選出し適切な問題作成ができるようにしていること、また、面接試験において、3つの小専攻の研究指導担当者がAP、定員充足を考慮しながら厳格な選抜を行い、直後の専攻協議会で判定会議を行い決定していることは評価できる。</p> <p>修士課程における入学定員に対する入学者数比率（5年平均）は0.34、収容定員に対する在籍学生数比率は0.60と改善傾向にある。B票で作成された2023年をゴールとする改善計画が着実に実行されることが望まれる。</p> <p>学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価する作業も行われていることが根拠資料から確認できる。</p> <p>改善・向上に向けた取り組みとして、研究力の不足から不合格とした留学生受験者について研究生として受け入れ、22年度入試の再受験への指導を行ったことも評価できる。COVID-19への対応・対策として、合同大学院説明会をオンラインで実施し、また、個別相談も実施して、学内3年生と学外からの進学希望者に進学アドバイスをを行ったことも、大いに評価できる。</p>
<p>2023年度<所見></p> <p>学生の受け入れ方針は、学位授与方針、教育課程の編成方針との一貫性があり、学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定し明確に定められている。教育学専攻協議会において教員の中から問題作成委員・検査委員が適切に問題作成を行い、面接試験においては3つの小専攻の研究指導担当者が厳格な選抜を行い、直後の専攻協議会で判定会議を行い決定するなど、公正な入学者選抜を行っており評価できる。</p> <p>2023年度の博士課程前期課程の入学志願者数は7、入学定員に対する5年平均比率は0.48、収容定員充足率は0.70となっている。2018年度以降2023年度を完了年度とする取り組み(B票)を続け、大学院説明会や担当教員のゼミ、授業見学ウィークでの指導や体験授業を通じて、収容定員に対する在籍学生数比率は徐々に改善していることは評価できる。</p> <p>長所・特色に記されるように、アジア圏からの留学生、中高教員免許に加えての小学校教員免許の取得（他大学・他学科の卒業生）、専修免許の取得を目指す学生を積極的に受け入れることなどにより、文化・価値観において多様な環境となっていることは高く評価できる。一方、長年の課題である内部進学者は1名在籍に留まっている。問題点・課題に記される教育学科卒業生の進路選択肢として大学院が十分に認知されていないことについて、貴専攻の事業計画にもあるが「教育研究を深める魅力や、専門性やスキルを高める場としての具体的なイメージを伝えていく」ことを継続して取り組まれることを期待する。また、大学・学科HPへの掲載等の工夫に加え、新しい情報発信としてSNSの利用も一考ではないだろうか。</p> <p>大学院創設時に想定した現職教員の受け入れについては、総合的に検討する時期に来ているとされているので、様々な社会状況の変化も踏まえて検討され、良い方向に進捗することを期待したい。</p>

◆評価の基準について

※学部、研究科等評価基準

S	大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。
A	大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。
B	大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。
C	大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

<p>基準5学生の受け入れ</p> <p>【大学基準】</p> <p>大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学生の受け入れ方針を定め、公表するとともに、その方針に沿って学生の受け入れを公正に行わなければならない。</p> <p>(解説)</p> <p>大学は、その理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、入学前の学</p>
--

習歴、学力水準、能力等の求める学生像、入学希望者に求める水準等の判定方法を示した学生の受け入れ方針を定め、公表しなければならない。また、入学定員及び収容定員を適切に定め、公表しなければならない。

大学は、その受け入れ方針に基づき、高等学校教育と大学教育との関連、社会人、帰国生徒及び外国人留学生の受け入れ、飛び級、編入学、転科・転部など、国際的規模での社会的要請に配慮し、適切な入学者選抜制度及びその運営体制を整備し、入学者選抜を公正に行う必要がある。

大学は、教育効果を十分に上げるために、入学定員に対する入学者数及び収容定員に対する在籍学生数を適正に管理しなければならない。

大学は、学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。